

第一回 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ

新しい学校施設の夢を語り合おう



ワークショップの概要

日 時：2023年1月21日（土）10:00～12:00

会 場：清瀬市役所 研修室1・2・3

テーマ：「新しい学校施設の夢を語り合おう」

内 容：当日は29名の参加があり、新しい学校施設はどんな場所になるとよい？どんな学びの場・生活の場を子どもたちに用意したい？地域住民にとっての学校施設はどんな場所？先生方が働きやすい学校施設とは？この場所だからこそ、できること、目指したいことはある？等の視点から各グループで新しい学校施設の夢を語り合い、その内容をグループの代表者が発表し、考えを共有しました。

各グループの主な意見をまとめました。

チーム ハッチ



異学年交流や保護者、地域と 架け橋になる学校

- ・異学年交流ができる場所があると他学年への橋渡しができる
- ・地域と学校がつながる架け橋としても、地域にオープンな施設がよい
- ・幼保連携が図りやすい、大学生も入れるような施設
- ・放課後クラブや学童の充実
- ・全天候型の校庭、暑くて体育ができない等もあるため、安全保障としても必要。天候によって遊び場がない
- ・コの字型の校舎で校庭を囲む
- ・図書の電子化
- ・名産を作れる、ハチを育てられる、それらの産物をいかせる取り組みや施設・設備
- ・クラブの外部指導や小中連携によって教員の負担減を目指せるとよい
- ・環境教育として太陽光や残飯を肥料にできる設備などの設置

チーム 自然



自然の豊かさをいかした 学校

- ・清瀬市の特長は自然が豊かであること。それをいかし、農園・畑があり、植物を育てられる学校にしたい
- ・ICTがどこでも使える環境がほしい。現在、屋外は使えない
- ・校門や通学路である歩道の安全性の確保が必要
- ・広い校庭がほしい。思いっきり遊びたい
- ・立地をいかした小中連携や交流があるとよい
- ・地域開放をするには教員の負担がない仕組みが必要
- ・職員室の空間や先生方の時間にゆとりが必要、職員の楽しさが子どもの楽しさにつながる
- ・施設面は、明るい学校、十分な収納、四方が一望できる屋上があるとよい
- ・現状トイレや流しの個数が少なく、休み時間は混んでいて使いにくいので、改善が必要

チーム ゆとり



ゆとりがある学校

- ・校舎は開放的で、わかりやすい・まとまりのある校舎がよい
- ・収納が充実するとよい
- ・先生方のゆとりが学べる時間を生み、交流の場や交流できる時間があるとよい
- ・子どものゆとりは持ち物の工夫（ランドセルが重い）が必要、遊びの場として校庭にゆとりがあるとよい
- ・図書室には大人も読むような様々な本があることで、地域開放や子どもの興味関心で選ぶ幅が広がるとよい。
- ・未就学児も遊べる場所があるとよい
- ・避難場所としての役割や機能の充実
- ・正門の位置はけやき通りに面していたほうがよい

チーム 清瀬



明るく、きれいな 学校

- ・明るく、きれいな学校施設、特にトイレが汚い
- ・児童机が小さい
- ・廊下や昇降口が狭く混雑する
- ・子どもの荷物が多い。水筒ではなくウォーターサーバーを設置してほしい
- ・ボール遊びができるなどのびのび遊べる環境
- ・未就学児も遊べる環境があるとよい
- ・タブレットの授業は楽しいが、重くて持ち帰りが大変である。
- ・保護者連絡はタブレットではなく、所有しているスマホでよい
- ・給食が冷たいので、温かいまま食べたい
- ・地域開放は知らない人が入ってくるという怖さがある
- ・セキュリティ強化が必要

チーム 未来



いつでも 行きたい 学校

誰でも 楽しい 学校

- ・開放的で明るい校舎がよい
- ・みんなの居場所になるような学校
- ・セキュリティ面や登下校が安全安心な環境
- ・開かれた教室で学びを楽しめる環境
- ・放課後の居場所や学童の活動場所としての充実
- ・地域のコミュニティセンターのような学校になると、地域交流ができる
- ・地域開放を行うことで避難所として有事の際に地域の人が入ってきたときでも運用がスムーズにできそうだ
- ・学校と保護者の対話、地域との対話を大切にすることやDX化等によって先生にとって働きやすい学校になるとよい